



記者手帳

鉄スクラップの市況は、いまだかつてないほどの

乱高下のさなかにある。今夏ま

鉄スクラップと逆有償

カーなどがこれまでで下げすぎの反動で値上げしたことが要因にあるという。需給の反発だ。

「2001年に逆有償になったときはH2(特級)ベース

それまで自由に受けていた電炉メーカーが荷止め、荷制限した。あまりに急で持たざるも起こった。この時には、一部の管理型処分場にシユレッターダストが集中し、地域によつてはそれがさらに国内需要が減って減産しており、いきな

できなくなり、管理型最終処分場などで処分が必要になった。この時には、一部の管理型処分場にシユレッターダストが集中し、地域によつてはそれがさらに国内需要が減って減産しており、いきな

占める自動車シユレッターダスト(ASR)が自動車リサイクル法により自動車メーカー引き取りとなったため、事態は解消に向かっている。ただ、ある業界関係者はいう。

で高騰していた価格が、10月に入り極端に下がり、同月には輸出に係る入札が行われなかった。

約6000円にまで落ち込み、逆有償になった。今回の下落もそうで、すでに鋼ダライ粉などは逆有償になっている。

急転してその処分場が搬入を停止したため、多くのシユレッター業者が「ダストパニック」に陥った。ダスト処分費用の急騰も事態に拍車をかけた。

「鉄が逆有償になった時、従来『専ら物』としてしか掌握していなかったものであるため、

11月10日過ぎの時点で底打ちの感が出てきたが、関係者によるとこれはトルコなどの国際相場が上がったこと、電炉メ

ただし、01年の時はじわじわと下がったため、持つて行き場を確保できた。今回はまさに急降下で、

受けることができなかつたようだ(関東の業界関係者)。逆有償については、業界と産業廃棄物処理業界との関連では、95年4月からシユレッターダストの埋立処分が従来の安定型最終処分場では

シユレッターダストの処分について、その後は、多くを

廃棄物処理法はこれを想定していなかつた。同法を厳密に読むと、『専ら物』で緩和されているのは廃棄物処理業の許可だけであり、委託契約やマニフェストは必要ともとれる。この辺をどう整理するか」(中)